



戦争遺跡とは、戦争のために作られた施設や、戦争で被害を受けた建物などで、現在もそのままだ、または遺構として残っているものを指します。渥美半島には1945(昭和20)年の太平洋戦争の終結まで、戦争に関わりのある施設と多くの軍人がいたため、こうした遺構が現在でもあちこちに残っています。

主なものとしては、まず半島先端部の平坦な地形を活かして作られた陸軍の試砲場(伊良湖射場)が挙げられます。また、太平洋戦争末期には米軍の上陸に備えて、渥美半島には陸軍第73師団(怒部隊)を始めとする多くの兵隊が駐留し、太平洋側の海岸沿いや山の中などのあちこちに陣地を築きました。

残された戦争遺跡は、かつて日本が戦争をしていたころのことを伝えてくれるとともに、今後の平和を考えるための貴重な文化財です。

◆伊良湖射場と地域の歴史

日本の近現代史と戦争は切っても切り離せないものです。一地方である渥美半島に暮らしていた人々の暮らしにも、否応なく大きな影響を与えるものでした。伊良湖射場を例に見てみましょう。

1906(明治39)年、伊良湖射場の用地拡大により、伊良湖村の全村民729名が集団で移転しました。当時の国の政策なので、従わざるをえないものでした。

一方、地元の人たちには、伊良湖射場に関連する仕事に就職する機会が生まれ、人やモノの移動が活発になるなど、よい効果もありました。昭和の初めごろの国による渥美線の延長計画は、伊良湖射場への物資輸送が目的であったといわれています。鉄道が開通すれば地域にとっても便利になるはずでしたが、日中戦争以降の長く続く戦争で資材不足となったためか、工事は中断されてしまいました。

そして終戦により、伊良湖射場は閉鎖されました。空いた広大な敷地には開拓団が入り、苦難の開墾作業を経て、現在は一面にキャベツやトウモロコシなどが栽培されています。

■渥美半島と戦争遺跡関連年表

1901(明治34)年	伊良湖射場が建設される。
1905(明治38)年	日露戦争が終わり、現田原市内の多くの集落で慰霊碑が建てられる。
1906(明治39)年	伊良湖射場の用地を拡大するため、伊良湖村が全村移転する。
1937(昭和12)年	日中戦争が始まり、田原市出身の兵隊の多くが所属していた歩兵第18連隊で多数の戦死者が出る。2年後に、このうちの1人の兵隊の像が現在の伊良湖町に建てられる。
1941(昭和16)年	太平洋戦争が始まる。
1943(昭和18)年	金属等回収令により寺の鐘を含む金属が供出される。
1944(昭和19)年	米軍の上陸に備え、渥美半島に軍隊が駐留し、陣地を構築するようになる。
1945(昭和20)年	8月14日、渥美線の電車が銃撃を受け、少なくとも15人が死亡する。翌日、終戦。閉鎖された伊良湖射場に米軍(進駐軍)がしばらく駐留し、軍事施設の撤去や地域の軍国主義教育の排除、民主教育の徹底などを行う。



26 伊良湖集落移転記念碑(日出町)



10 工事が途中でストップしたまぼろしの渥美線の痕跡(石神町)



27 地元雇用者記念写真
1921(大正10)年
(小中山町) 個人蔵

※戦争遺跡は、危険な場所や個人の所有地にある場合があります。見学の際にはご注意ください。

田原市教育委員会(田原市博物館)

〒441-3421 愛知県田原市田原町巴江11-1
TEL 0531-22-1720

<http://www.taharamuseum.gr.jp>



渥美半島の戦争遺跡



田原市教育委員会

27 伊良湖射場「気象塔兼展望塔(通称:六階建)と無線電信所」

伊良湖射場 (陸軍技術研究所伊良湖試験場)

伊良湖射場は、大砲などの兵器を実際に射撃するための試験場で、陸軍の使用する大砲や弾薬のほとんどがここで試験検査を受けて、実戦配備されていきました。

1901(明治34)年、小中山(田戸神社付近)から西山地区が伊良湖射場の用地となり、1906年には西山及び伊良湖地区まで拡張されました。

1945(昭和20)年の終戦により施設は廃止となりましたが、現在でも多くの射場関連の建物や遺構が残されており、地元から「六階建」と呼ばれている気象塔兼展望塔などはその代表ともいえるものです。

27 射場入口(小中山町)



当時



現在

25 伊良湖ベトン(伊良湖町)



当時



現在

※ベトンとはコンクリートのことで、ここでは大砲の砲弾の衝撃を耐えるための防壁のことをいいます。

26 福江(島)観測所(古田町)

伊良湖射場の主要施設から離れた場所にも、砲弾の着弾状況等を確認する観測所が何か所かありました。海を隔てた神島にも施設が残されています。



現在

- 1 笠山の機関銃陣地
- 2 蔵王山の陣地
- 3 コンクリート製梵鐘
- 4 遠藤中佐と西尾少尉の慰霊碑(月光墜落地)
- 5 渥美線機銃掃射被害跡地付近に建つ慰霊碑
- 6 戦闘機のプロペラ
- 7 野田の監視哨
- 8 高松の陣地
- 9 鬼墜の陣地
- 10 渥美線路盤跡に残る築堤とコンクリート橋
- 11 越戸の陣地
- 12 山田の陣地
- 13 和地の壕
- 14 一色観測所
- 15 一色機関銃陣地
- 16 小塩津の陣地
- 17 右禅坊観測所
- 18 和名山の陣地
- 19 骨山の陣地
- 20 外浜観測所
- 21 伊良湖水道機雷封鎖監視所跡
- 22 28榴榴弾砲陣地
- 23 兵士像・伊良湖集落移転記念碑
- 24 伊良湖岬の陣地
- 25 伊良湖ベトン
- 26 福江(島)観測所
- 27 伊良湖射場主要施設
- 28 田原町護国神社・忠魂社
- 29 赤羽根町護国神社・忠魂塔
- 30 渥美町護国神社
- 31 神戸村忠魂碑
- 32 野田村忠魂碑
- 33 泉村忠魂碑
- 34 伊良湖岬村忠魂碑
- 35 殉国者芳名之碑(サンフランシスコ平和条約記念碑)
- 36 豊橋海軍航空隊基地(大崎海軍飛行場)
- 37 老津飛行場



※この図は、『愛知県史 別編 建造物・史跡 文化財1』などをもとに作成したものです。ここに掲載の戦争遺跡が渥美半島すべての戦争遺跡ではありません。

●本土決戦のための陣地



21 伊良湖水道機雷封鎖監視所跡 (日出町)

太平洋戦争末期、米軍の上陸に備えて築かれたものです。



15 一色機関銃陣地(和地町)

※●番号は、「渥美半島の戦争遺跡MAP」の番号に対応しています。

●戦死者等を慰霊する碑・施設



29 赤羽根町護国神社・忠魂塔(若見町)

戦争で亡くなった人々を慰霊するものです。戦時中は国威発揚を目的として、児童による参拝なども行われました。



28 日中戦争で戦死した地元出身兵士の像(日出町)